

地域との連携・外部人材活用による土曜授業の実践

菊池市立菊池北小学校



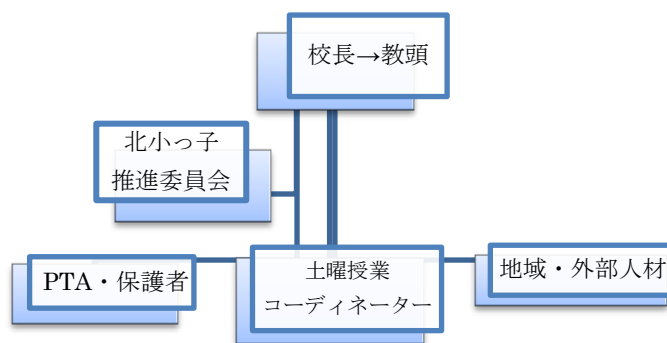
■学校・地域の特徴

菊池市立菊池北小学校は、平成5年に開校した。平成25年度には菊池市内北部の4校が統合となり、通学距離の長い児童はスクールバス通学となった。学校周辺は緑に囲まれ、自然豊かである。新しくなった校区は、古い歴史ある文教の地から新興住宅街、肥沃な田園地帯から純農山村と幅広く、学校教育に大変協力的な地域である。

■研究の概要

従来から実施してきた体験学習や平日の学校行事、週休日のPTA行事などから土曜授業に移行可能な内容はないか検討する。また、スクールバス導入で体力低下が懸念されるため、児童が運動に興味・関心をもち、楽しく体力向上に取り組むよう専門家を招聘した土曜授業を行う。

■体制図



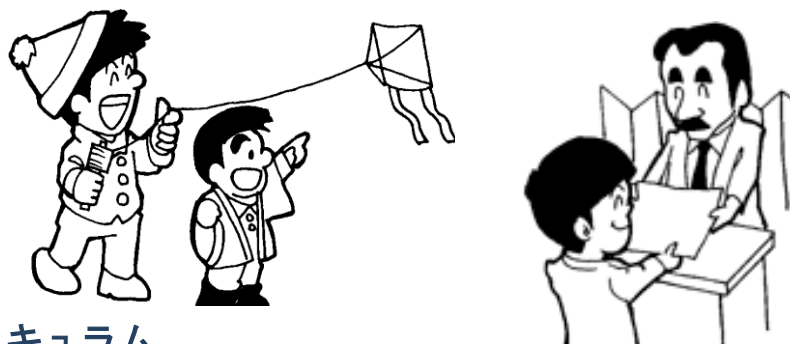
■年間カリキュラム

月	内 容	月	内 容
4	なし	10	地域交流会(1~3年生), 環境学習(4年生), 外部人材活用の体育(5~6年)
5	親子愛校作業(1~2校時), 教科等の授業(3校時・フリー参観)	11	教科等の授業(1校時), 校内持久走大会(2~3校時), PTAバザー
6	外部人材活用による体育(1~4年:体づくり運動, 5~6年:水泳)	12	外部講師によるキャリア教育講話(1校時), 親子クラフト教室(2~3校時)
7	授業参観(1校時・各学級「道徳」), 外部講師による情報モラル講話(2校時・全校)	1	凧作り(1~2年), 椎茸駒打ち(3年), 1/2成人式(4年), 認知症学習(5~6年)
8	なし	2	4校統合以前の旧校区ごとの地域の歴史・文化などの体験活動
9	教科等の授業(1校時), 地域の団体と連携した校内相撲大会(2~3校時)	3	教科等の授業(1~2校時), 参観授業(3校時), 学級懇談会

保護者・地域と連携した学年単位の授業

■活動のねらい

- 児童が、保護者や地域の各種団体と連携した学年単位の授業をとおして、多様な学習活動を行う。これらは従来、週休日のPTA行事や平日の授業だったものを土曜授業に移行して実施するものである。このことで、より多くの保護者や地域の方々の参加を促す。



■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業
2校時	凧作り		椎茸の駒打ち	二分の一人式	認知症理解学習	認知症理解学習
3校時						租税教室 (H28年度)

■実施上の工夫

- 1・2年生の「凧作り」は、従来は平日の授業で行っていた。今回は土曜授業で実施したため、児童は、保護者と一緒に凧を製作することができた。
- 3年生の「椎茸の駒打ち」は、従来、週休日にPTA行事として行っていた。菊池地域振興局農林部林務課及び菊池市林業研究会の方々に技術面の指導をいただいた。
- 4年生の「二分の一人式」もPTA行事だったものである。今回、教育課程内の「土曜授業」の位置付けとすることで、すべての児童及び保護者が参加することができた。
- 5・6年生の「認知症理解学習」は、従来は平日の授業で行っていた。今回は土曜日であるが菊池市役所健康福祉部高齢支援課地域包括支援係の方々に指導していただいた。
- 「認知症理解学習」を平成27年度は5・6年生で実施したので、平成28年度の6年生については、「租税教室」(外部講師として税理士を招聘)に変更した。

■学習内容の実際

		<p>1・2年生「凧作り」</p> <p>保護者と一緒に、凧を作成した。凧揚げの経験が少ない児童にとって、貴重な経験となった。自分たちで作った凧が揚がると、歓声が上がっていた。</p>
		<p>3年生「椎茸の駒打ち」</p> <p>林務課などの指導のもと、毎年恒例の椎茸の駒打ちを実施した。3年生が5年生になったときに収穫される。収穫した椎茸は、軽トラ朝市で販売することになっている。</p>
		<p>4年生「二分の一成人式」</p> <p>毎年、この式を実施している。全ての保護者が参加され、厳粛な雰囲気の中で進められた。式終了後はタイムカプセルを埋めた。二十歳の成人式で掘り返す予定である。</p>
		<p>5・6年生「認知症理解学習」</p> <p>認知症に対する正しい理解だけでなく、対応の仕方等を、参加型ロールプレイ形式で学んだ。祖父母と同居している児童だけでなく、全ての児童が真剣な態度だった。</p>

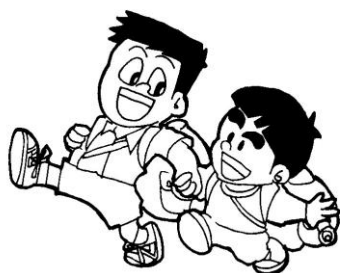
■成果

- 各学年が保護者や地域の各種団体と連携した授業内容であった。そのため外部への依頼・連絡調整は校内の土曜授業コーディネーターではなく、各学年部が直接行った。コーディネーターは、当日の会場の割り振り調整、ICT機器の確認、駐車場案内・活動記録等を行い、円滑な実施に努めることができた。

旧校区地域体験「ふるさと大好き，北小っ子」

■活動のねらい

- 児童が，学校統合以前の旧校区の自分の地域に分かれて出かけ，各地域の伝統や歴史などに触れ，地域の方々と交流を深める。このようにして地域のよさを体で感じることで，ふるさと菊池に誇りをもち，ふるさとが大好きな児童を育てる。



■1日のカリキュラム

	水源地区	水迫地区	龍門地区	高野瀬	遊蛇口	豊間
1校時	水源交流館 で事前学習	古川兵戸 井手見学	馬作りの 歴史講話	孔子堂で 事前学習	遊蛇口の歴 史の話	古川兵戸 井手見学
2校時	原井手(水 路)の散策	古川兵戸 井手見学	馬作りの 作業	班別の 史跡巡り	地域の伝統 技術巡り	古川兵戸 井手見学
3校時	原井手(水 路)の散策	DVD・紙芝 居鑑賞等	馬作りの 作業	史跡巡り と講話	地域マップ 作り	DVD・紙芝 居鑑賞等

■実施上の工夫

- 本校は，旧4校（水源小，迫水小，龍門小，菊池北小）が統合し，平成25年度に“新生”菊池北小学校として再出発している。それぞれの地域は，自然，歴史，伝統文化に恵まれた環境にある。そこで，旧校区各地域の優れた歴史・文化遺産等を学習素材として発掘し，地域人材を活用した土曜授業を行うこととした。
- 土曜授業実施前に菊池市区長会などの会合の場で，土曜授業コーディネーター及び管理職が参加して，学校と地域が連携した授業内容を検討する場を設けた。
- 龍門地区は菊池市地域おこし協力隊の支援を受けて実施した。高野瀬区は地域の子ども孔子堂大学事業に重ねて実施した。また，隣接する水迫地区と豊間区は合同で実施した。
- 学校外の5ヶ所に分かれるため，スクールバス臨時便を活用した。また，事前に地区児童会を開き，当日の集合や帰宅方法について各地区・登校班ごとに確認した。

■学習内容の実際

		<p>水源「原井手散策」</p> <p>地域の方々と一緒に、日頃見ることができない水路トンネル(マブ)を散策した。地域の新たな魅力に気付くことができた。</p>
		<p>水迫・豊間「古川兵戸井手」</p> <p>井手の源流見学や井手が出来るまでの話を聞いた。北小の先輩たちが作った紙芝居を聞いて、井手の歴史を学習し、大変分かりやすいものとなった。</p>
		<p>龍門「馬作り体験」</p> <p>藁を使つての作業は、とても難しく、地域の方々からマンツーマンで指導をしていただいた。児童は、完成した馬を嬉しそうに持ち帰った。</p>
		<p>高野瀬「地区の菊池遺産巡り」</p> <p>児童は、自分たちの地区に、どんな文化遺産があるのか、ほとんど知らなかった。遺産を巡りながら地域の方から説明を聞く中で、地区の新たな魅力に気付くことができた。</p>
		<p>遊蛇口「地区のマップ作り」</p> <p>地区には、伝統的な技術をもった人たちが数多くいることに気付くことができた。藁細工や竹細工などを初めて見て、とても驚いていた。</p>

■成果

- 地域体験活動では地域の方に指導していただくことで、地域の方々が学校や児童に目を向ける機会になった。このことは、地域での健やかな児童の育成につながるものとする。

教育講演会と親子クラフト教室（授業参観）

■活動のねらい

- 児童が、地域の方や保護者と共にキャリア教育講演を聴くことで、将来への夢と希望をもつ機会とする。また、親子クラフト教室として季節の工作を授業参観で行い、親子のふれあいの機会とする。



■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	キャリア教育講演会					
2校時	親子で冬のリース作り		親子でミニ門松作り		親子でしめ縄作り	
3校時						

■実施上の工夫

- キャリア教育講演会は、時間を確保するために、朝活動の時間(15分)と1校時(45分)を合わせて実施した。
- 講演会の講師として小島希世子氏(えと菜園 代表取締役)を招聘した。事前に電話やメールで打ち合わせを行い、児童に農業の素晴らしさだけでなく、社会貢献の方法や、今、子どもたちが何をすべきかについて具体的事例を挙げて講演していただいた。
- 親子クラフト教室では材料の準備から、当日の実技指導まで菊池少年自然の家の方々に指導をいただき、学校職員の負担感軽減につながった。

■成果

- 講演会の内容が充実していて、地域・保護者の方にも大変好評であった。児童も今、勉強や運動にがんばることの大切さを再認識していた。また、クラフト教室の工作の内容が、季節に合ったもので、完成した作品は大切に各家庭に持ち帰られ、長期にわたって飾られた。

専門家活用の体育（体づくり運動・水泳）

■活動のねらい

- 4校統合後は、スクールバス利用により、児童の体力低下が懸念された。教科体育の充実や業間体育を取り入れてきたが十分ではない。そこで各競技の専門家を土曜授業の体育で活用し、児童が運動に興味・関心をもち、楽しく体力向上ができるようにする。



■1日のカリキュラム

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1校時	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業	教科等の授業
2校時	体育(体づくり運動)		教科等の授業	教科等の授業	体育(水泳)	教科等の授業
3校時	教科等の授業	教科等の授業	体育(体づくり運動)		教科等の授業	体育(水泳)

■実施上の工夫

- 体づくり運動の外部人材としてエアロビックの大村詠一氏を招聘した。本校が平成25年度から3年間体力向上モデル校であった関係から中学年体育の授業などで毎年協力いただいている。児童にも顔なじみで、皆が大変楽しみにしている。
- 水泳の授業では、熊本YMCAから日本選手権にも出場経験のある2名のトップスイマーを招聘した。速く泳ぐことよりも美しく楽に泳ぐためのポイントを具体的に示していただき、泳ぎを苦手としている児童も集中して授業に参加できた。
- 低・中学年、5・6年の体育を2・3校時に振り分けた。2・3校時の間に20分の業間を設ける特別日課とし、専門家活用の体育を実質55分確保できるよう工夫した。

■成果

- 専門家を活用することで、「僕もできるようになりたい」「私も練習します」など児童の意欲の向上が見られた。水泳が苦手な児童の技能向上も図られた。また、専門家から各担任へ、指導補助の仕方や児童の動きを見る視点を教えていただき、実技研修の機会となった。

2年間の研究のまとめ

■取組の成果

- 土曜授業実践校に指定される前から、本校では地域の伝統文化を学ぶ体験活動が多く行われており、それらの中から土曜授業に移行できるものを選び実施した。そのため、運営や準備などが比較的スムーズにできた。
- 区長さん方の協力等もあり、地域の伝統や文化を掘り起こすことができた。これらのことを、児童に広げることができ、地域のよさを再認識することができた。
- これまで週休日に行っていたPTA行事や平日に行っていた学校行事等も、土曜授業として実施できるものを移行して行った。そのことにより、保護者だけでなく、兄弟姉妹や地域の方々も多数参加していただき、例年よりも盛大なイベントとなっていた。
- 授業参観や地域の方、専門家などの外部人材の方との体験活動などを通して、親子のふれあいや地域の方などとの交流ができた。中でも、一番の収穫は人材ネットワークができたことである。多くの専門家の方々、地域人材等の発掘ができ、今後も継続した連携がとれるようになった。
- 土曜授業を行ったことで、月曜から金曜までの授業時間の確保が、確実にできるようになった。そのことにより、時間的なゆとりができ、学力充実につなげていくことができた。

■取組の課題

- 従来、週休日のPTA行事や平日の学校行事だったものを土曜授業として実施し、保護者の参加が増えたことは良かったが、日程の都合上2週連続して土曜授業を実施せざるを得ない月もあり、負担感を抱かれた部分もあった。
- 地域体験活動の計画には、地域の方々とともにカリキュラムの開発を行う機会をもつことが重要であった。その際の土曜授業コーディネーター担当の教職員の役割が重要である。教職員自身がまず地域に入り、地域の方としっかりコミュニケーションをとり、地域を知っていくことが土台となる。一方、日常の教育活動と並行して準備を進めるのには、困難さも伴った。
- 土曜授業の内容を決める際には、天候等に左右されないようなものや、連絡・調整・準備等を簡易なものにしていくことが必要である。
- 教職員の勤務体制の調整を図っていくことが必要である。

■今後の方向性

- 今後検討することも3点見つかった。一つ目は土曜授業のカリキュラムの編成である。効果的なカリキュラムを編成する必要があると考えている。二つ目は教師の負担感が増えたことである。三つ目は、土曜日に習い事を入れている子どもが欠席しがちになるということである。今後、これらについては、対応できるよう検討していく。